

## Do CL Column

次の行動に導いてくれる本たち

—相談室バーデイズ—

小木 晴代

h-ogis8doCL@tbz.t-com.ne.jp




原田マハ「風神雷神」は天正少年使節団がローマ法王に会いに行く話です。歴史的事実にフィクションを加え、壮大なストーリーになっています。俵屋宗達が少年たちに同行し「最後の晚餐」の前でカルバッチョに会うところは感動的です。実際はどうであったか知りたくて、若桑みどり「クアトロ・ラガッツイ」を読み始めましたが、かなり詳しい学術書なので手に負えなくなり、松田毅一「天正遣欧使節」に移りました。歴史学者の著者は、丁寧に使節団の追跡をしました。その執念ぶりに心が震えました。俵屋宗達が描いたと言われている風神雷神図屏風が京都国立博物館で展示というニュースを聞き、8月31日の新幹線チケットをとりました。しかし、コロナ感染者が多い時期でしたから、泣く泣く京都行はキャンセルしました。次の展示機会を狙っています。風神雷神図から三冊の本に戻り、あの時代に思いをはせたいと願っています。

村山由佳「風よ あらしよ」は伊藤野枝の生涯を描いた本です。瀬戸内寂聴も野枝を書いていることを知り、今まで敬遠していた寂聴を読むことにしました。食わず嫌いで損をしていました。

90歳の寂聴が書いた「月の輪草子」は清少納言に興味を持たせてくれました。「春はあけぼの・・・」から先に行かなかった私を枕草子に導いてくれました。もちろん現代語訳付きですが。

枳居孝「世界と日本の赤十字」では、パリ万博が開かれたころ、赤十字の活動に興味を持った日本人がいたことを知りました。敵の兵士も手当てをするという精神は日本になかった時代のことです。現在放映中のNHK「青天を衝け」の激動期と赤十字を対で知る機会となりました。飛躍して、松戸の戸定邸に行ってみる予定です。

レイノルズ先生は「行動が道を拓く」と教えてくれました。おかげで道は四方八方に拓いています。独居老人の暇つぶしも建設的にする努力の一端です。(千葉県千葉市インストラクター)

 [目次へ戻る](#)